

(3) 言語活動を取り入れた授業の実践

ア 実践事例

1 単元名

情報の活用と情報モラル

2 単元の考察

(1) 教材観

ネットワーク環境の発達や、携帯端末の普及に伴い、生徒を取り巻く環境は大きく変化している。生徒たちは、スマートフォンやパソコンを通じて、「いつでも」「どこでも」様々な情報を得ることができる。また逆に、Webサイトを公開したり、SNSや動画共有サイトなどを通して「誰でも」気軽に情報を発信することができるようにもなった。しかし、それに伴い、ネットいじめ、個人情報流出、ネット依存など様々な問題が増加している。

この単元では、情報機器の発達により、見えない相手とのやり取りを行う上で、相手の立場を理解することの重要性を理解させ、他者の創った著作物を利用する際のルールや注意点の学習を通して、知的財産権を守ることの大切さを学ぶ。また、法や制度がどのような考え方の基に制定されるに至ったかについても理解させたい。

(2) 系統性

インターネットを通して情報を受信するだけでなく、気軽に発信できるようになった。同時に、多くの著作物が生み出されており、その著作物を守るための著作権を知る必要が出てきた。

生徒は1年次の情報処理の授業を通して、情報モラルについて学習している。2年次以降は文書作成や画像処理等を学び、その際に他者の著作物を利用することもある。本単元では、どのように他者の著作物を利用すべきか考えさせることで、情報処理の授業で他者の著作物を利用する際に留意することについて学ばせたい。

3 指導目標

- (1) 現代社会が抱えるICT機器に関する諸問題について関心をもち、情報モラルについて意欲的に追求し、捉えることができるようにする。(関心・意欲・態度)
- (2) 情報モラルについて班での話し合い活動を通し、多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現できるようにする。(思考・判断・表現)
- (3) 現代社会が抱える情報モラルに関する問題について理解させ、その対処法を身に付けさせる。(知識・理解)

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ICTを活用するために必要な情報モラルに関心をもち、法規やルールについて自ら進んで追求し、捉えようとしている。	情報モラルに関する諸問題に気づき、その必要性や重要性について、話し合い活動による他者の意見や検索サイトの内容を踏まえ多面的・多角的に考え、考察の過程や結果を表現している。		情報モラルの意義や情報モラルに関する問題について理解し、対処法を身に付けている。

5 取り入れた指導の工夫

- (1) 情報モラルを概観する場面で、身近な題材を取り上げることにより、関心をもって授業に取り組むようにする。
- (2) 事例問題を考える場面では、班で話し合い活動を行うことにより、他者の意見を理解し、考えを深めるようにする。

6 指導と評価の計画 (全3時間)

◎は、全員の評価の機会とする観点

○は、補完する評価の機会とする観点

時	学習活動	支援及び留意点	評価の観点				評価項目(方法)
			関	思	技	知	
1	○情報モラルを概観する。 ・情報モラル5つの柱を理解する。 ・ICT機器の長所・短所について考える。 ・SNSへの画像投稿について考える。 ・ネットいじめについて考える。	・ニュースで話題となった記事を例示し、情報発信のあり方や問題点を考えさせる。 ・情報の受発信の際の行動が与える影響について考え、その結果を適切に表現できる。	◎				・ICT機器の普及により、特有の問題が発生していることについて考えている。(観察・発表) ・ネット社会も現実の社会も考え方が同じであることについて表現している。(ワークシートの記述)
2	○法の理解と順守を概観する。 ・知的財産権 ・身近にある著作物 ・著作権はなぜ必要か考える。	・ICT機器の発達によって様々な著作権問題が発生していることを意識させる。	○				・積極的に話し合い活動に参加している。(観察・発表)

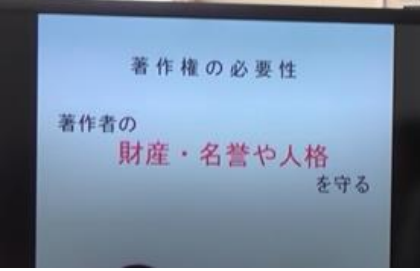
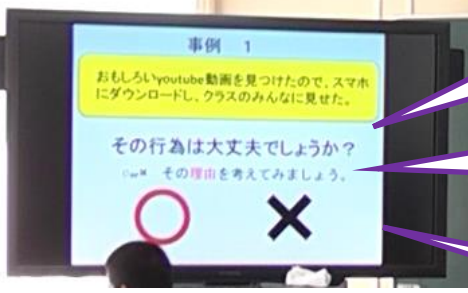
	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット上にあるマンガをコピーする行為について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動を行い、様々な考え方・意見があることを意識させる。 ・話し合い活動が活発になるように、少数意見を拾い上げる。 ・司法判断がどういった発想から行われているか提示する。 		◎		<ul style="list-style-type: none"> ・身近に知的財産権があることに気づき、ICT機器の発達によって問題が増えていることに気づき、表現している。 (ワークシートの記述)
3	<p>○著作権の理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YouTube 動画のダウンロードについて考える。 ・書店での未購入の雑誌やマンガの撮影について考える。 ・様々な事例について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の意見を SKYMENU の投票機能で調査する。 ・話し合い活動を行い、様々な考え方があることを意識させる。 ・話し合い活動が活発になるように、少数意見を拾い上げる。 ・話し合い活動を行い、様々な考え方や意見があることを意識させる。 ・話し合い活動が活発になるように、少数意見を拾い上げる。 ・班内で十分に意見交換ができるように時間配分に配慮する。 ・班で意見交換しながら記入するように指導する。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・動画のダウンロードについて合法かどうか考察し、適切に判断している。 (ワークシートの記述) ・著作物の利用について、法的側面やモラル的側面に基いて考え、その結果を適切に表現している。 (ワークシートの記述)
						<ul style="list-style-type: none"> ◎ 安易な行動は著作権法に抵触する可能性があることを理解している。 (ワークシートの記述)

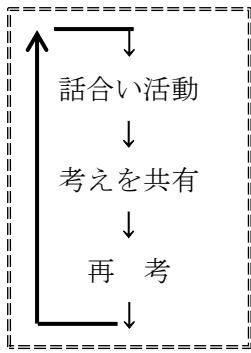
7 実践授業 (第3時/全3時間)

本時の目標

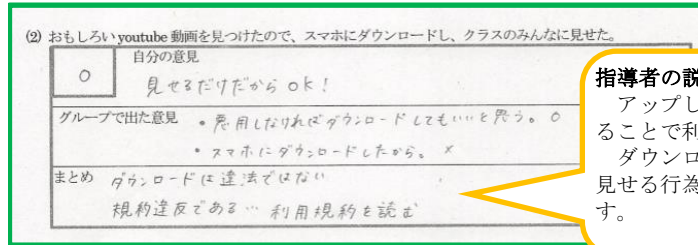
- ・ 情報社会の一員として、とるべき適正な行動について、法的・モラル的側面から考えることができるようにする。
- ・ 話し合い活動に参加し、他者の意見を理解することで、考えを深めることができるようにする。

授業の様子

学習活動	教師の働き掛け
<p>1 前時の学習を振り返り、本時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に学習した概要を説明した。 ・ 解説を電子黒板に表示し、ワークシート No 1 (1)を記入させた。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が日常生活の中で複製を簡単に行っていることに気付かせるために、ICT機器の浸透により生活が変化していること、機器の発達により著作権侵害の行為が起りやすくなっていることを確認した。
<p>2 YouTube 動画のダウンロードについて考える (事例1)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の意見をワークシート No 1 (2)に記入する。 ・ SKYMENU の投票機能で投票する。 ・ 班で話し合い、他者の意見も交え、更に考えを深める。 	<p>事例1：YouTube 動画のダウンロードは、著作権法的に合法か？</p>  <ul style="list-style-type: none"> 生徒Aの発言 見せるために動画をアップしているので問題ない。 生徒Bの発言 アップした人の許可をもらってないから、ダメだ。 生徒Cの発言 なんとなくダメな気がする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子黒板上で意見の分布を確認させた。 <p>指導者の指示 そう思う理由が大切です。理由をしっかりと考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 違法・合法のみでなく、理由を考えさせるように指導した。



- ・事例1について、互いの意見を理解させるために、グループで話し合わせた。
- ・考えが深まるように、発言やワークシートへの記述を取り上げ、数名に発表させた。
- ・様々な考え方があることに気付かせるために、出てきた意見を板書し、ワークシートに整理させた。



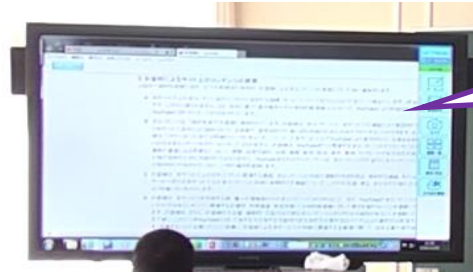
指導者の説明

アップした人は、再生されることで利益を得ています。ダウンロード後、みんなに見せる行為は著作権侵害です。

生徒Pのワークシートの記述

- ・解説を聞き、ワークシートにまとめる。

- ・電子黒板を利用し、YouTube の利用規約B-5を表示し、ダウンロードに際しての規約を読み、解説のまとめを記入させた。



生徒Dの発言
読むのが面倒くさい。

指導者の説明

正しく使うためには、規約を読むことは大切です。

3 書店での未購入の雑誌やマンガの撮影について考える (事例2)。

事例2: 書店で気になる記事を見つけたので、スマホのカメラで撮影した。

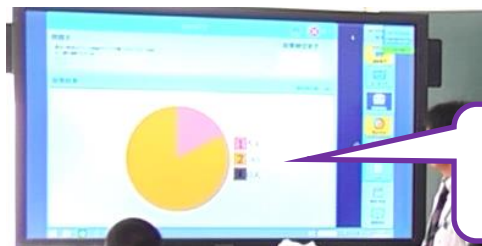
- ・個人の意見をワークシート No 1 (3) に記入する。
- ・SKYMENU の投票機能で投票する。

- ・ここでは「デジタル万引き」という言葉を使わずに、考えさせた。

生徒Fの発言
店内で写真とったらダメでしょ。

E 生徒の発言
何か本屋さんを書いてあったのを見た。

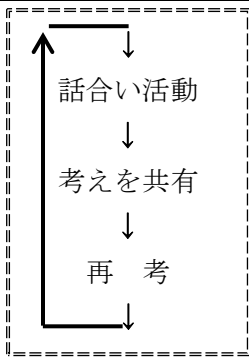
- ・電子黒板上で意見の分布を確認させた。



生徒Gの発言
やっぱり違法行為と考える人が多かった。

- ・班で話し合い、他者の意見も交え、更に考えを深める。

- ・違法・合法のみでなく、理由をしっかりと考えさせた。
- ・互いの意見を理解させるために、班で話し合わせた。



・この行為について何と呼ばれているのか、学習用PCで検索する。

・SKYMENUの投票機能で投票する。

・デジタル万引きが法的にどうなのか学習用PCを使い調べる。
・解説を聞きワークシートにまとめる。

・考えが深まるように、発言やワークシートへの記述を取り上げ、数名に発表させた。

生徒Jの発言
購入してないから違法。

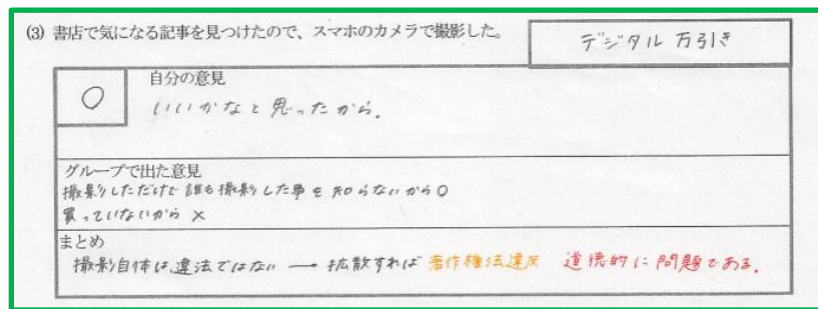
生徒Iの発言
撮るだけなら大丈夫。

生徒Hの発言
盗撮と一緒にしょ。

・様々なものの見方や考え方があることに気付かせるために、出てきた意見を板書し、ワークシートに記入させた。

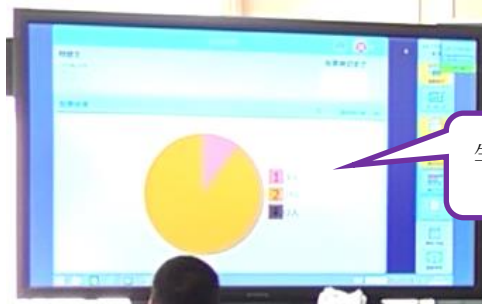
・検索結果を確認し、ワークシート No 1 (3) に「デジタル万引き」と記入させた。

・「万引き」を強調し、再度、「デジタル万引き」は違法か合法か問いかけた。



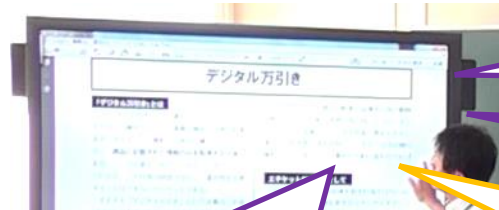
生徒Qのワークシートの記述

・投票機能を使い、電子黒板上で意見の分布を確認させた。



生徒Kの発言
やっぱり違法が多かった。

・電子黒板を利用し、解説サイトを表示し要点を読み、板書した。



生徒Lの発言
違法行為ではないんだね。

生徒Nの発言
意外だった。

生徒Mの発言
法的には問題なくても、やってはいけないよね。

指導者の説明
デジタル万引き目的で入店した場合は、建造物侵入となる場合があります。

1回目の話し合い活動に比べて2回目の話し合い活動の方が活発な意見交換ができていた。

<p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を振り返り、著作権の知識・理解を深める。 <p>・感想を書く。</p> <p>・様々な事例について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勝手な判断をせず、考えたり、調べたり、相談したりすることの必要性を説明した。 ・著作物を利用する場合は原則として許諾が必要なことを示した。 ・ワークシート No 1 (4) の空欄を埋めながら、聞くように指示した。 ・「違法でなければいい」のではなく、社会のルールやモラルを守るためには、日頃から考えて、判断していくことが大切だということ押さえた。 <div data-bbox="644 495 1134 779" style="text-align: center;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート No1 (5) に感想を記入させた。 <div data-bbox="526 887 1418 1133" style="border: 2px solid green; padding: 5px;"> <p>(5) 本日学習した内容についての感想を書いてください。</p> <p>書店で内装の一部を撮影したことだから、たけい足元の許可を撮影したりはダメにして いたので、気をつけなければいいのかなと思いましたが、 考えたり、言問ったり、相談する習慣をつけようです。 著作権について今までには考えなかったけれど、たけい足元の許可を撮影してはダメな ことになったのかなと気がつきました。</p> </div> <p style="text-align: center;">生徒Rのワークシートの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート No 2 を配布し、班で意見交換しながら記入するように指導した。
--	--

考察

生徒に身近な動画のダウンロード、スマートフォンのカメラ機能を利用した事例により問題提起をし、班での話し合い活動を取り入れたことで、意見交換が活発になり、ワークシート No 1 の記述や感想、ワークシート No 2 の記述では、著作権を理解した解答が多く見られました。また、電子黒板にリアルタイムで投票結果を表示させたことで、自分の意見と同じ、または反対の意見をもった人の割合が視覚的に分かり、それをきっかけとして、更に活発な話し合いができました。話し合い活動を通して投票数値の変化が出たことは、生徒が他者の意見を聞いたことによって、生徒の思考が深まり、判断を変えたものと考えます。

「話し合い・再考・話し合い」のサイクルにより、理解度と思考に高まりが見られました。また、著作者の立場に立った意見を出す生徒が出てきたことから、生徒の思考が深まっていると捉えることができたと考えます。

全体の前で意見を発表した生徒は、言葉を選び自分の考えを端的に述べようとしていました。また、ワークシートでは記入にも他者の考えを聞くこと、調べてみることの大切さに関する記述がありました。これらのことから言語活動を取り入れた授業を通して生徒の思考が深まっていると考えます。